

## 千葉大学医学部6年生を対象とした熱帯医学のイメージと 医学に対する志向性に関する予備的調査

直井 幸二<sup>1</sup> 亀山 菜つ子<sup>2</sup>

千葉大学大学院 医学研究院 感染生体防御学<sup>1</sup> 千葉大学 医学部<sup>2</sup>

医学生を対象に熱帯医学に対するイメージ調査と医学における志向性調査を実施したので、その結果を報告する。対象としたのは千葉大学医学部6年生108名（男子61名、女子47名）で、70名（男子41名、女子29名）から回答を得た（回収率は65%、うち男子67%、女子62%）。質問項目は年齢、性別等の属性のほか、熱帯医学に対する興味度、イメージ調査としては（狭い・広い）など12項目、志向性調査としては（国内志向・国際志向）など6項目について、それぞれ5段階評価で回答してもらった。各項目で平均値、分散等を算出したほか、興味度を従属変数、イメージ及び志向性項目を独立変数として線形重回帰分析（前進法）を行った。

興味度の平均値は2.88で、熱帯医学に対する興味が必ずしも高くないことが示唆された。熱帯医学の平均的イメージは、「やや広い」「温かい」「やや柔かい」「やや騒がしい」「やや明るい」「やや未来志向」「国際的」「途上国」「予算希少」「やや臨床的」「やや最新技術」「ややスペシャリスト」であった。一方、医学生の志向性の平均値は、「臨床志向」「やや国内志向」「ややスペシャリスト志向」「やや急性疾患対応志向」「やや開発国志向」であることが示された。なお、ほぼ全ての項目で男女間における統計的有意差は認められなかった。

重回帰分析では、有意水準5%で「医学生の途上国志向」「ゼネラリストのイメージ」「明るいイメージ」「固いイメージ」が興味度の上昇に寄与していることが示された。また有意水準は満たさないものの、モデルに組み込まれた回帰係数より「温かいイメージ」「基礎医学のイメージ」「予算豊富なイメージ」「静かなイメージ」「医学生のゼネラリスト志向」「最新技術のイメージ」が興味度を押し上げる傾向性を持つことも示唆された。

一医学部6年生を対象とした予備的調査ではあるものの、医学生の熱帯医学に対する興味度が必ずしも高くないことの背景には、医学生自身の「開発国志向」「国内志向」「臨床志向」などがあるものと推測される。また、「豊富な予算を受けて最新技術を用いる基礎医学分野だがゼネラリストの傾向も持つ」という熱帯医学のイメージが、医学生の興味度を上昇させるという結果も示唆的である。

